



## 分科会 4 皆で踏みだそう、在宅医療・在宅介護 —多職種で連携し、地域で活動を—

### W-04-02 在宅医療で薬剤師に期待すること

きたざわ あきひろ  
北澤 彰浩

JA 長野厚生連佐久総合病院 副診療部長・地域ケア科 医長

厚生労働省が在宅医療を推進するなか、在宅医療に関わる多職種の方々が在宅医療の現場で大変活躍をするようになって来ています。その中では少し出遅れた印象ではありましたが、薬剤師の皆様の活躍も最近では目覚ましいものがあります。

例えば、今までは服薬・配薬管理と言えば要介護状態の患者さんに対して御家族、訪問看護師またはヘルパーさんが行うものだと思われていました。しかし、その場合の服薬・配薬管理は患者さんがただ単に薬を飲んでいるかどうかの確認を行うだけの行為になっていることが多かったように思います。

それが、介護保険の改正に伴い「訪問薬剤管理指導」が算定できるようになったおかげで、私達医師が薬剤師の皆様に患者宅に訪問していただくことを依頼し易くなりました。そして、薬の専門家である薬剤師の皆様が患者宅へ足を運び、実際に自分の目で自分が調剤した患者さんの療養の場と患者さんの御様子を確認することができるようになりました。その上で、薬剤師という立場で服薬・配薬管理を行うからこそ気付ける様々な問題やその問題の解決策等を提案していただける行為になりました。

この変化は、私達在宅医療に関わっている医師にとっては大変有り難いものでありますし、それより何より患者さん御本人にとって大変重要な役割を担うものになっております。

しかしながら、この様な薬剤師の皆様の活躍が日本中至る所で展開されているかと言えば、まだ必ずしもそうとは言えない状況であります。

よって、学会当日は薬剤師の皆様が在宅医療への参加をもっと行い易くするためにはどうしたらよいか、また在宅医療に参加していただける時に特にどのような心構えで参加していただきたいか、実際の患者さん宅ではどのような事を話したり行って欲しいか、今後もっとどのように展開して行っていただきたいか等を提案し皆様と一緒に考えられれば思っております。

その結果として、今後ますます日本の在宅医療が多職種の皆様の連携により、より充実し発展したものとなり、在宅医療を受ける必要が生じた患者さんにとって通院・入院医療に勝るとも劣らないものとなる事は言うまでもなく、中には在宅医療こそが病気を持った状態で生きて行くために自分の人生の目的を達成するためには必要な医療そのものであると思ってもらえるような今後の展望を皆で共有できればと考えております。

当日は皆様の積極的な御協力を宜しくお願い致します。